

佐 島 の 丘 開 発 事 業

事後調査報告書 (第 24 回)

令和 7 年 8 月

京浜急行電鉄株式会社

事後調査報告書

令和7年8月8日

神奈川県知事 殿

郵便番号 220-8625
住 所 横浜市西区高島1丁目2番8号
名 称 京 浜 急 行 電 鉄 株 式 会 社
代 表 者 取締役社長 川 俣 幸 宏
電話番号 045(225)9580

神奈川県環境影響評価条例の一部を改正する条例（平成10年神奈川県条例第45号）附則第3項の規定によりなお従前の例によることとされた同条例の規定による改正前の神奈川県環境影響評価条例第32条の規定により次のとおり報告します。

対 象 事 業 の 名 称	佐島の丘開発事業	整理番号	103
事後調査計画の進捗状況	別添1 参照		
事後調査の内容	別添2 参照		
事後調査の結果	別添3 参照		
調査等の結果との検証結果	別添4 参照		
事後調査の結果に基づいて対策を講じた場合は、その内容			
事後調査の受託者	住 所：東京都千代田区麴町5丁目4番地 名 称：日本工営株式会社 代表者：代表取締役社長 福岡知久		
備 考			

総目次

別添1. 事後調査計画の進捗状況	1
別添1-1. 対象事業の位置または実施区域	1
別添1-2. 事後調査計画の進捗状況	5
別添2. 事後調査の内容	9
第1章 植物（注目すべき植物種、植物群落）	9
第2章 植物・動物・生態系	11
第3章 景観	30
別添3. 事後調査の結果	35
第1章 植物（注目すべき植物種、植物群落）	35
第2章 植物・動物・生態系	40
第3章 景観	132
別添4. 調査等の結果との検証結果	143
第1章 植物（注目すべき植物種、植物群落）	143
第2章 植物・動物・生態系	144
第3章 景観	183
参考資料 事業の概要	185
1. 対象事業の目的	185
2. 計画の内容	185
3. 実施方法	191
4. 事後調査の実施状況	195

別添 1. 事後調査計画の進捗状況

別添 1 - 1.	対象事業の位置または実施区域	1
別添 1 - 2.	事後調査計画の進捗状況	5

別添 1－1. 対象事業の位置または実施区域

第 1 章 対象事業の位置または実施区域 1

別添 1. 事後調査計画の進捗状況

別添 1-1. 対象事業の位置または実施区域

第 1 章 対象事業の位置又は実施区域

実施区域は、横須賀市の西部地区で、横須賀市佐島の丘 1 丁目及び 2 丁目に位置し、北東側を国道 134 号、南東側を県道佐島港線（県道 213 号）に挟まれ、実施区域の北側には市立大楠中学校が隣接しており、南西側に佐島市街地と佐島漁港がある。

実施区域は、丘陵台地と谷戸から構成され、標高は海拔約 8～70m である（図 1.1.1 及び図 1.1.2 参照）。

なお、平成 18 年 1 月 28 日より、実施区域は住居表示が実施され、佐島 2 丁目 1 番 1 他から佐島の丘 1 丁目及び 2 丁目となった。

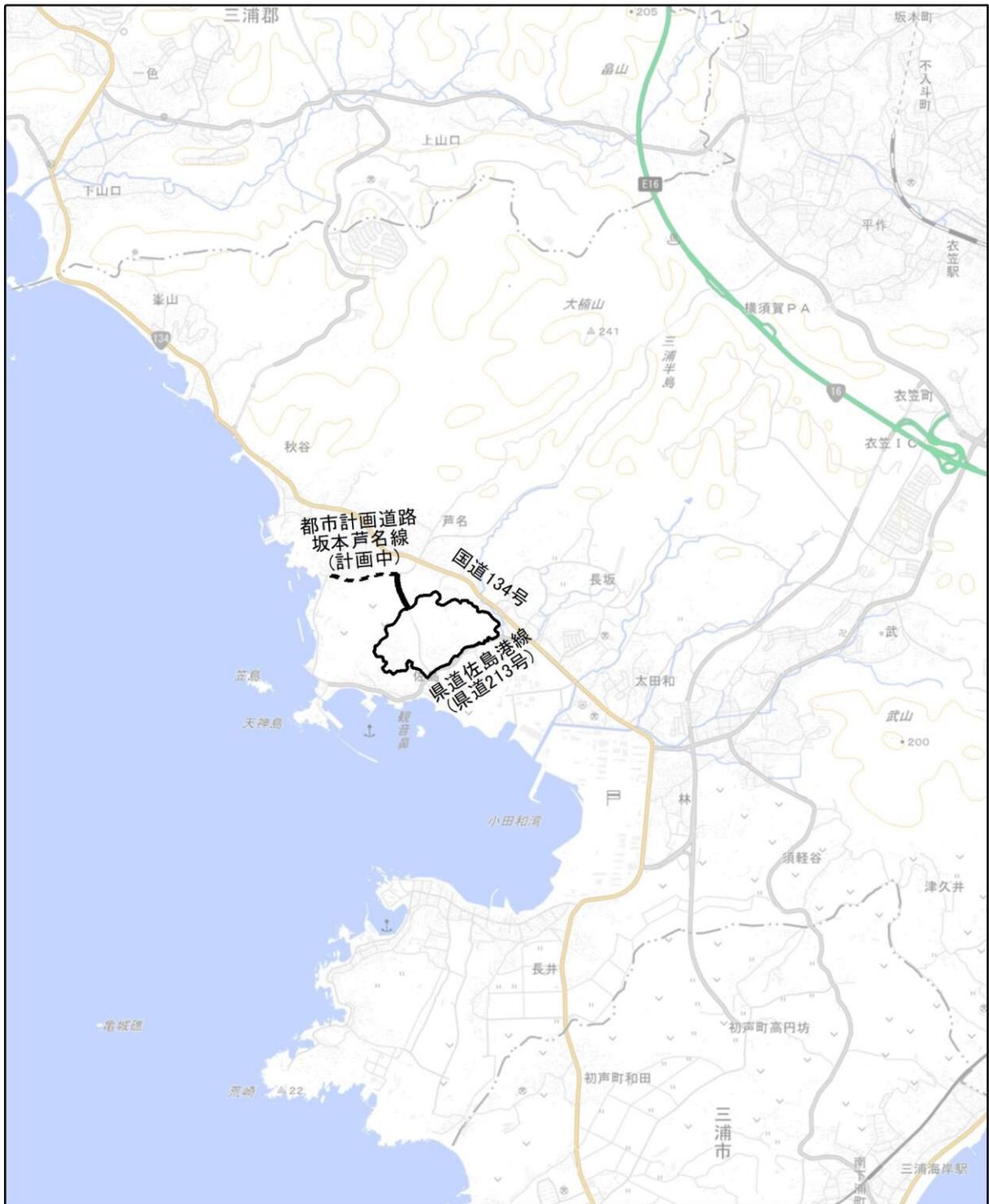
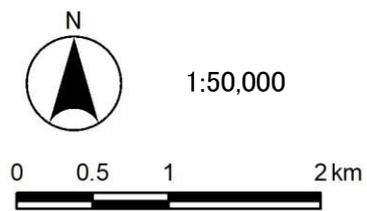


図 1.1.1
実施区域の位置

凡例
 実施区域



地形図出典：国土地理院ウェブサイト
[\(https://maps.gsi.go.jp/\)](https://maps.gsi.go.jp/)

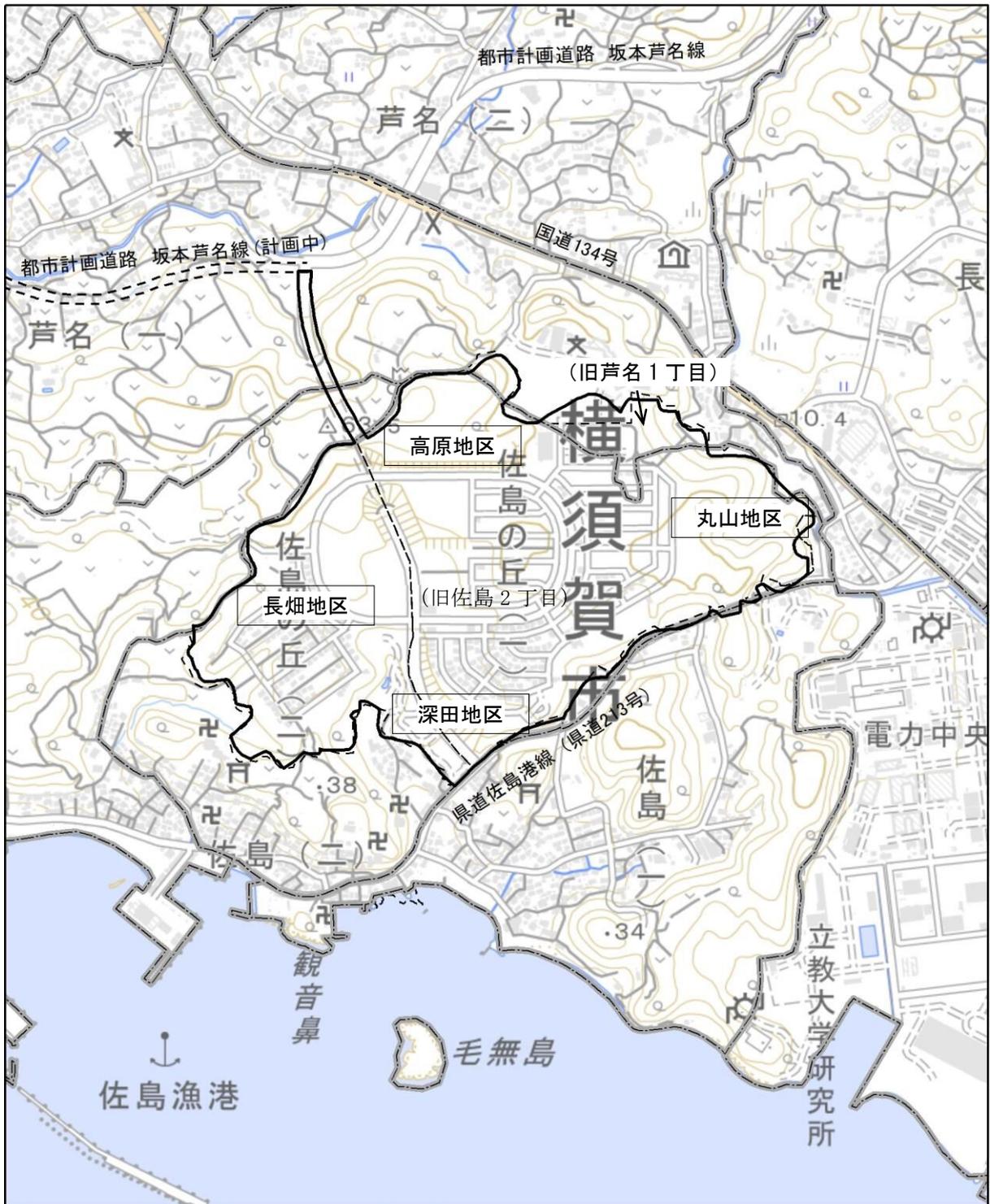
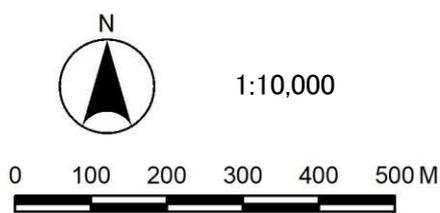


図 1.1.2
実施区域周辺の概要



凡例

- 実施区域
- 旧町丁字界
- 新町丁字界

注) 平成 18 年 1 月 28 日より、実施区域は住居表示が実施され、横須賀市佐島の丘 1 丁目及び 2 丁目となった。

地形図出典：国土地理院ウェブサイト
(<https://maps.gsi.go.jp/>)

別添 1 - 2. 事後調査計画の進捗状況

第 1 章 事後調査項目	5
第 2 章 事後調査計画の進捗状況	6

別添 1-2. 事後調査計画の進捗状況

第 1 章 事後調査項目

事後調査を実施する項目については、環境影響予測評価書（佐島の丘開発事業環境影響予測評価書（平成 12 年 12 月）京浜急行電鉄株式会社（以下「予測評価書」という。））において表 1.2.1 に示すとおり選定した。

表 1.2.1 事後調査項目の選定及び事後調査を実施しない理由

評価項目	行為内容 評価細目	工事中	工事完了後	供用開始後	事後調査を実施しない理由
大気汚染	規制項目（粉じん）	×	—	—	下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。
水質汚濁	指標項目（外観）	○	—	—	
騒音	騒音	○	—	×	供用開始後は下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。
振動	振動	×	—	×	下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。
廃棄物	一般廃棄物	×	—	×	下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。
	産業廃棄物	—	—	×	
電波障害	テレビジョン電波障害	—	—	×	下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。
水象	河川	—	×	—	下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。
	地下水	○	—	—	
地象	傾斜地の崩壊	—	×	—	下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。
植物・動物・生態系	植物	○	○	○	工事中においては短期間に実施区域内の自然環境が大きく改変するため、注目すべき種及び群落の移植後の事後調査及び湿地環境における植物、昆虫類等の生息状況の確認以外は実施しない。
	動物	×	○	○	
	水生生物	×	○	○	
	生態系	×	○	○	
文化財	文化財	×	—	—	工事に先立って発掘調査を行うため、下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。
景観	景観	—	○	×	供用開始後は下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。
安全	交通	×	—	×	下記ア、イ、ウ、エのいずれにも該当しない。

注：○印は事後調査を実施する項目、×印は事後調査を実施しない項目、—印は予測評価を実施していない項目

なお、表中の「事後調査を実施しない理由等」欄におけるア、イ、ウ、エは以下のとおりである。
 ア、予測結果が評価目標値と近接し、環境に及ぼす影響が懸念されるおそれがある。
 イ、予測の精度が十分でなく、検証を要する。
 ウ、環境保全対策の実施の効果が出現するのに時間を要し、継続的な監視が必要である。
 エ、新たな環境保全対策を実施した場合に、その技術の実効性について検証を要する。

第2章 事後調査計画の進捗状況

1) 対象事業の進捗状況

対象事業は、令和6年4月8日付で事業を完了した。(工事工程計画は参考資料の193ページに記載。) 工事完了後の土地利用計画図は図1.2.1に示すとおりである。なお、戸建て住宅用地の一部と公園等公共施設及び民間施設用地の一部については、平成18年6月から供用を随時開始している。

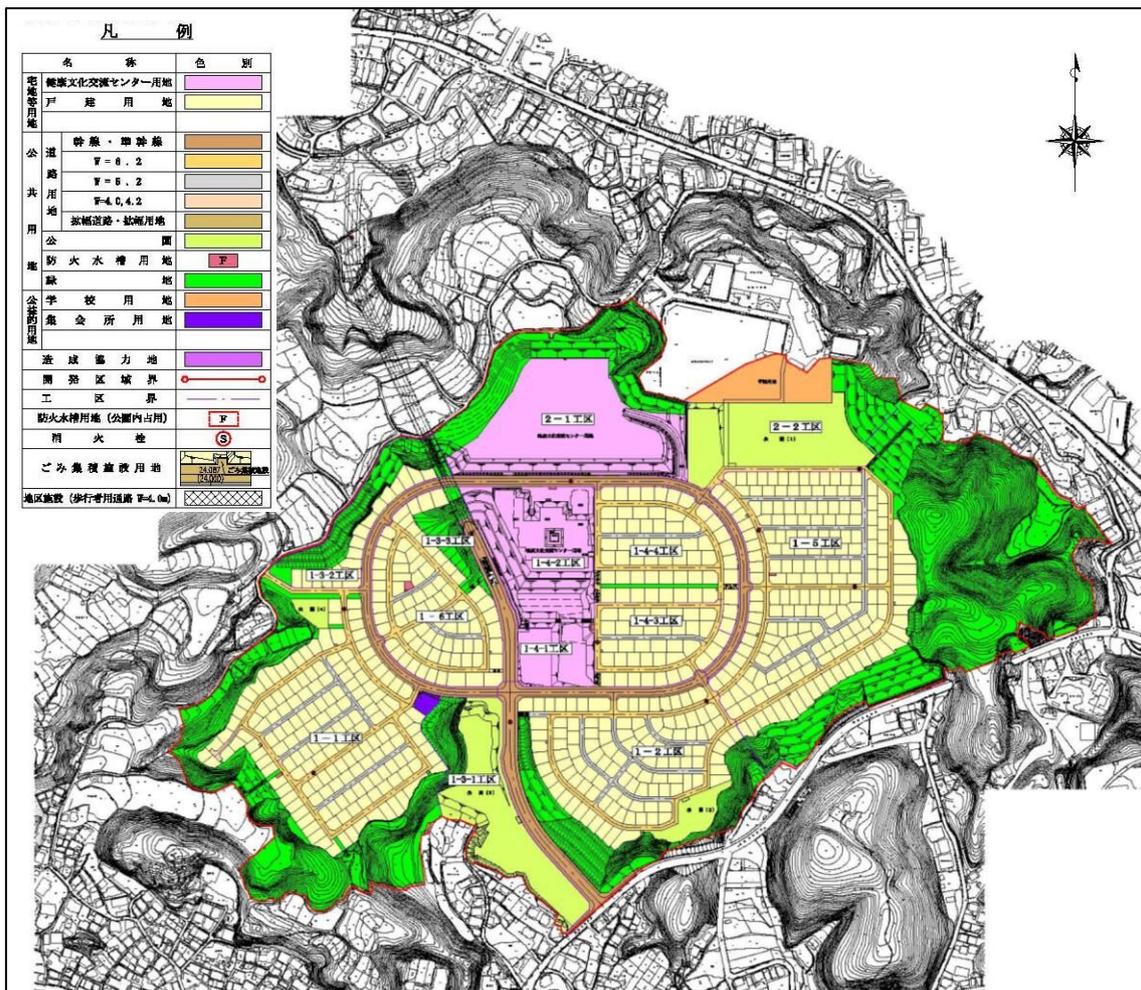


図 1.2.1 土地利用計画平面図

2) 事後調査計画の進捗状況

予測評価書に記載した事後調査計画をまとめると表 1.2.2 に示すとおりである。
 表 1.2.2 に示した事後調査項目のうち、令和 6 年度に植物・動物・生態系の植物、動物、水生生物のほか、景観の調査を実施したのでここに報告する。(これまでに実施した事後調査の状況は参考資料の 195 ページに記載。) これらは工事完了後及び供用開始後 5 年目に実施する調査であり、対象事業の工事が令和 6 年 4 月 8 日付で完了したため、工事完了後の調査として令和 6 年度に実施した。供用開始後 5 年目の調査については、令和 10 年度に行う予定である。

表 1.2.2 事後調査項目一覧

項目	細目、内容	調査時期等	調査地点、範囲	調査内容
水質汚濁	外観	工事中の毎年降雨時	2 地点	SS 濃度の測定
騒音	騒音	工事最盛期 2 回	3 地点	建設作業騒音の測定
水象	地下水	トンネル工事期間中毎月 1 回	4 地点	既設井戸の水位測定
植物・動物・生態系	植物 (注目すべき植物種、植物群落)	移植適季前※ 移植後※	生育場所 移植先	生育状況調査 活着状況調査
	ヘイケボタルの保全	工事中	丸山地区南東部及び北東部、深田地区の谷戸、整備した湿地	生息状況の確認、改変谷戸部における捕獲、人工飼育、丸山地区南東部の谷戸への放流、整備した湿地への放流
	湿地環境の創出	工事中	丸山地区北東部の谷戸、整備した湿地	丸山地区北東部の谷戸及び整備した湿地の植物、昆虫類の生息状況、移植表土量の確認
	植物	工事完了時及び供用開始後 5 年目	予測評価範囲と同様	植生・植物相・植栽の生育状況
	動物			哺乳類、鳥類、昆虫類、両生類・爬虫類、土壤動物
	水生生物			ベントス
景観		工事完了後	予測評価範囲と同様	写真撮影による

※：植物（注目すべき植物種、植物群落）の調査は工事中、工事完了後及び供用開始後 5 年目に実施。

注) が、本報告書に記載する内容。

別添 2. 事後調査の内容

第1章 植物（注目すべき植物種、植物群落）	9
第2章 植物・動物・生態系	11
第3章 景観	30

別添 2. 事後調査の内容

第 1 章 植物（注目すべき植物種、植物群落）

1) 保全対策の計画

注目すべき植物種及び植物群落については、地域の種を保全すること、周辺地域の緑地環境と連担する大きな緑のネットワークを形成することを目的とした公園・緑地計画等の考えにもとづき、表 2.1.1 に示す保全対策を実施することとした。

移植後の活着状況の確認は、植物種については 1 週間までは毎日、2 ヶ月目までは 1 週間毎とし、植物群落については、移植後 2 ヶ月目まで 1 週間毎に行い、必要に応じて散水等の対応を行うこととした。その後、植物種、植物群落ともに工事中は四季、工事完了後及び供用開始後 5 年目は春季、夏季に生育状況を確認する。

保全対策の実施にあたっては、事業者、事後調査等の受託者及び施工者において図 2.1.1 に示す体制で行うこととした。

表 2.1.1 注目すべき植物種及び植物群落の保全対策

種名または群集、群落名		保 全 対 策	令和 6 年度の事後調査内容
種	エビネ	保存緑地内のアカガシ群落内及びその周辺に移植する。	活着状況調査
	コ克蘭		
	ヨメナ	日当たりの良い保存緑地の林縁部に移植する。	活着状況調査
群落	イノデータブノキ群集	保存緑地の一部としてそのまま保存する。	—
	ヤブコウジースダジイ群集	群集を構成する樹種の幼木、中低木を丸山地区の保存緑地内に移植する。	活着状況調査
	タチヤナギ群落	現状のまま採取して、湿地土の移植と同時に実施区域南部に整備する親水公園の湿地部に移植する。	活着状況調査
	アカガシ群落	保存緑地の一部としてそのまま保存する。	—
	マテバシイ群落	群集を構成する樹種の幼木、中低木を丸山地区の保存緑地内に移植する。	活着状況調査

※ が、現時点で保全対策を実施した植物種及び植物群落

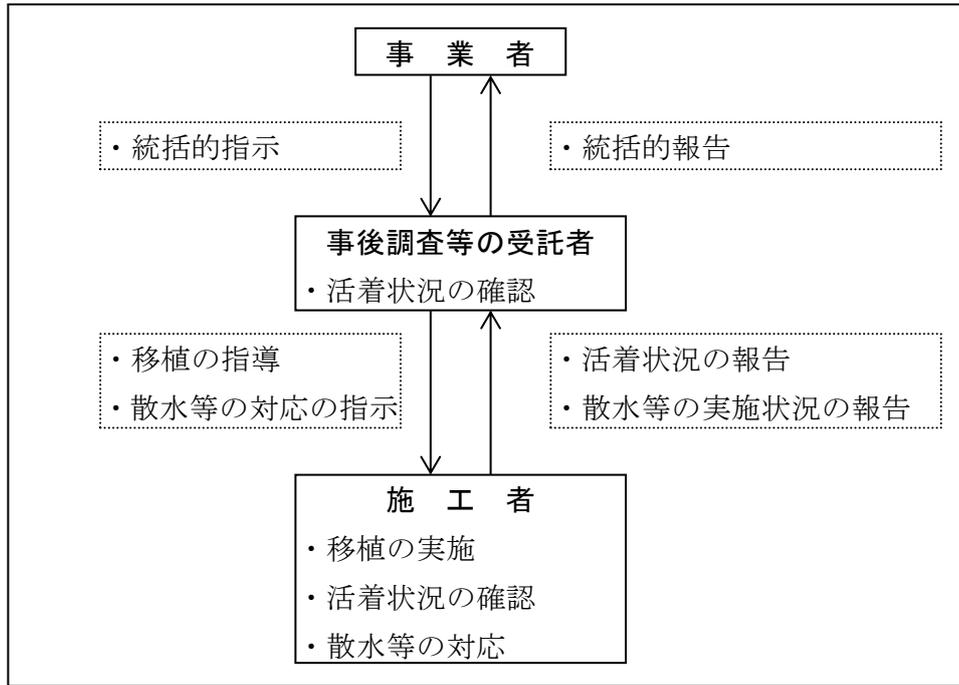


図 2.1.1 事後調査実施における体制

2) 保全対策の実施

注目すべき植物種であるエビネ及びコクランについては平成 13 年度に、ヨメナについては平成 16 年度に移植を実施した。注目すべき植物群落であるマテバシイ群落については平成 13 年度に、タチヤナギ群落については平成 14 年度に、ヤブコウジースダジイ群集については平成 16 年度に移植を実施した。また、平成 16 年度に移植したヨメナについては、平成 19 年度に再移植を実施した。事前の確認調査、移植の結果は第 1 回、第 2 回、第 4 回の事後調査報告書に記載した。移植後の各植物の活着状況については、保全対策の計画に従い確認を行った。

3) 活着状況調査

令和 6 年度は工事完了後となるため、活着状況調査を春季と夏季に行った。調査実施日は、表 2.1.2 に示すとおりである。

表 2.1.2 現地調査実施日

調査項目	調査実施日	備考
移植した植物の 活着状況調査	令和 6 年 4 月 15～17 日	春季
	令和 6 年 7 月 3～5 日	夏季

第2章 植物・動物・生態系

1) 事後調査事項

事後調査事項は、工事完了時の植物・動物及び水生生物の生育・生息状況とした。

2) 事後調査範囲

事後調査範囲は、予測評価範囲と同様とした。

3) 事後調査時点

事後調査時点は、工事完了時とした。

4) 事後調査地点

事後調査地点は、注目すべき植物種及び植物群落の移植先、回復森林、親水公園の湿地部とそれに連続する地点として、表 2.2.1 及び図 2.2.1 に示す保存緑地、回復森林、回復緑地及び公園の適切な地点とした。ポット苗の植栽実績は表 2.2.2 に示すとおりである。

表 2.2.1 緑地の面積と種類

緑地（緑化） の種類	面積（ha）	事後調査対象	備考
保存緑地	8.1	●	
回復森林	5.4	●	ポット苗（潜在自然植生種等）
回復緑地	0.2	●	
公園	2.8	●	親水公園、多目的公園等
居住ゾーン内緑化	4.0		敷地内緑化率 30%以上
交流ゾーン内緑化	2.4		敷地内緑化率 50%

※ 1) 保存緑地…現況の森林植生に被われた樹林地を保存することをいい、対象事業では、主に実施区域東側の丸山地区及び外周部の樹林を現況のまま保存する。

※ 2) 回復森林…切盛土工事によって出現するのり面を潜在自然植生種（その地域に本来生育していた可能性のある種）や郷土種（その地域で元々生育している種）によって樹林化した森林。

※ 3) 回復緑地…切盛土工事によって出現する小規模なりのり面や保存緑地と隣接する部分において、低木や草本によって緑地の回復を図る緑地。

※ 4) 居住ゾーン内緑化…区画数の増加で道路が増えたことにより、緑地協定で定められた緑地面積に達しないことから、一部の緑化率を引き上げた。

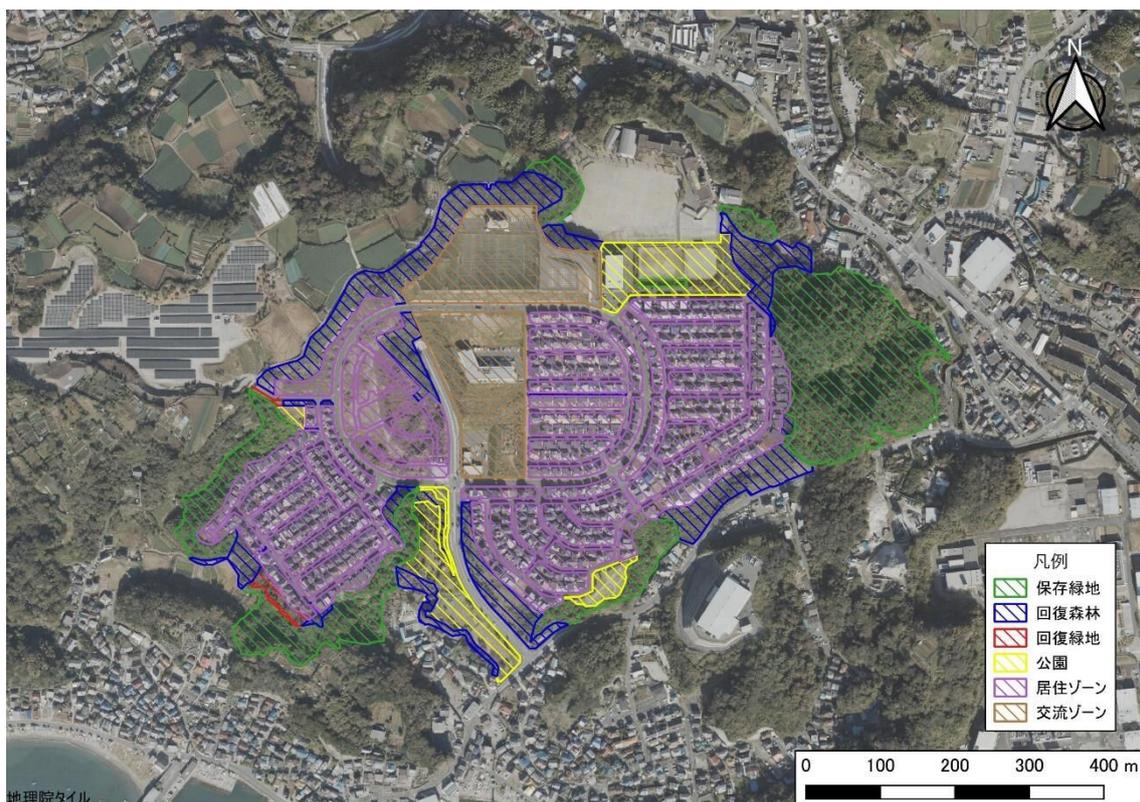


図 2.2.1 事後調査地点

表 2.2.2 ポット苗の植栽実績

植栽年度	1-1 工区	H18
	1-2 工区	H17
	1-3-1 工区	H18
	1-3-2 工区	R4
	1-3-3 工区	H26
	1-4-1 工区	H18
	1-4-2 工区	H19
	1-4-3 工区	H20
	1-4-4 工区	H20
	1-5 工区	H21
	1-6 工区	R3
	2-1 工区	H20
	2-2 工区	H20
樹種	スダジイ、タブノキ、オオシマザクラ、モチノキ、カクレミノ、シイ、カシ	
大きさ	幹回り 10.5 cm、高さ 1.0m	
植栽面積	5.4ha (ただし、既存樹木も含む。)	

※工区は p.6 「図 1.2.1 土地利用計画平面図」を参照。

5) 事後調査期間及び時期

工事完了時の調査期間は1年間を基本とし、表 2.2.3 に示す時期とした。

表 2.2.3 事後調査

項目		実施時期			
		春季	夏季	秋季	冬季
植物	植生・植物相・植栽の生育状況	●	●		
動物	哺乳類	●	●	●	●
	鳥類	●	●	●	●
	昆虫類	●	●	●	
	両生類・爬虫類	●	●	●	
	土壌生物		●		
水生生物	底生生物（ベントス）	●	●		

6) 事後調査方法

(1) 植物

イ. 植物相

現地調査実施日は表 2.2.4 に示すとおりである。

表 2.2.4 現地調査実施日（植物相）

分類	季節	実施日
植物相、植栽の生育状況	春季	令和6年4月15～17日
	夏季	令和6年7月3～4日

①植物相調査

調査範囲内を踏査し、出現する維管束植物（種子植物及びシダ植物）の種と分布状況を記録する。重要種と環境影響予測評価書において選定されている注目すべき植物（ヨメナ、エビネ、コ克蘭）は、種名と確認地点を記録した。

②植栽の生育状況調査

樹林の乾燥化の影響や林外からの草本種の混入、林縁植生の形成状況及び生育状況を確認した。

ロ. 植生

現地調査実施日は表 2.2.5 に示すとおりである。

表 2.2.5 現地調査実施日（植生）

分類	季節	実施日
植生、群落構造	夏季	令和6年7月4～5日

①植生調査

調査範囲に分布する植物群落の種組成を把握するために、現地で確認した植生単位の概況を整理した。

環境影響予測評価書において選定されている注目すべき植物群落（イノデ-タブノキ群集、ヤブコウジ-スジダイ群集、タチヤナギ群落、アカガシ群落、マテバシイ群落）は、群落名と確認地点を記録した。

②群落構造調査

主な各群集・群落ごとに植生断面図の作成を行う。

(2) 動物

イ. 哺乳類

現地調査実施日は表 2.2.6 に示すとおりである。

表 2.2.6 現地調査実施日（哺乳類）

分類	項目	季節	実施日
哺乳類相	目視・フィールドサイン調査	春季	令和6年4月16～17日
		夏季	令和6年7月4～5日
		秋季	令和6年10月2～3日
		冬季	令和7年1月16～17日
	トラップ調査	春季	令和6年4月15～17日
		夏季	令和6年7月3～5日
		秋季	令和6年10月1～3日
		冬季	令和7年1月15～17日
	夜行性哺乳類目視調査	夏季	令和6年7月3～5日

①哺乳類相調査

・目視・フィールドサイン調査

主に中・大型哺乳類を対象として調査範囲の任意の調査ルートを踏査し、足跡、糞、食痕等の痕跡により生息種の確認を行った。なお、食物連鎖の上位性を代表するタヌキに留意した。確認された種は、種名と確認地点を記録した。

・トラップ調査

ネズミ類等の小型哺乳類を対象としたシャーマントラップを表 2.2.7 及び図 2.2.2 に示す4調査地点に設置し(1地点あたり30個)、捕獲された種の同定を行った。トラップは前日に設置し、翌日に捕獲状況を確認した。

・夜行性哺乳類目視調査

コウモリ類を対象として、調査範囲の任意の調査ルートを踏査し、夏季の夜間(18:00～21:00)に目視及びバットディテクターによる調査を行った。確認された種は、種名と確認地点を記録した。

表 2.2.7 トラップ調査地点の概要

番号	環境概要	景観
1	保存緑地内に設定された地点。常緑広葉樹林内にあり、周辺は樹木が繁茂した閉塞空間となっているため林内は暗い。林床に下草は少なく、落葉が堆積して落葉層は厚い。	
2	回復森林内に設定された地点。常緑広葉樹林の林縁部にあり、周辺は落葉広葉樹やアズマネザサが繁茂した閉塞空間となっている。下草が地上を覆い、落葉層は薄い。	
3	回復緑地に設定された地点。常緑広葉樹林の林縁部にあり、周辺は樹木やアズマネザサが繁茂した閉塞空間となっているため林内は暗い。林床に下草は少なく、落葉層は厚くない。	
4	親水公園内に設定された地点。湿地と樹林の境界で、湿地は低茎・高茎草本、樹林は常緑広葉樹が繁茂した閉塞空間となっている。湿地は下草が繁茂し樹林内は落葉が厚く堆積する。	

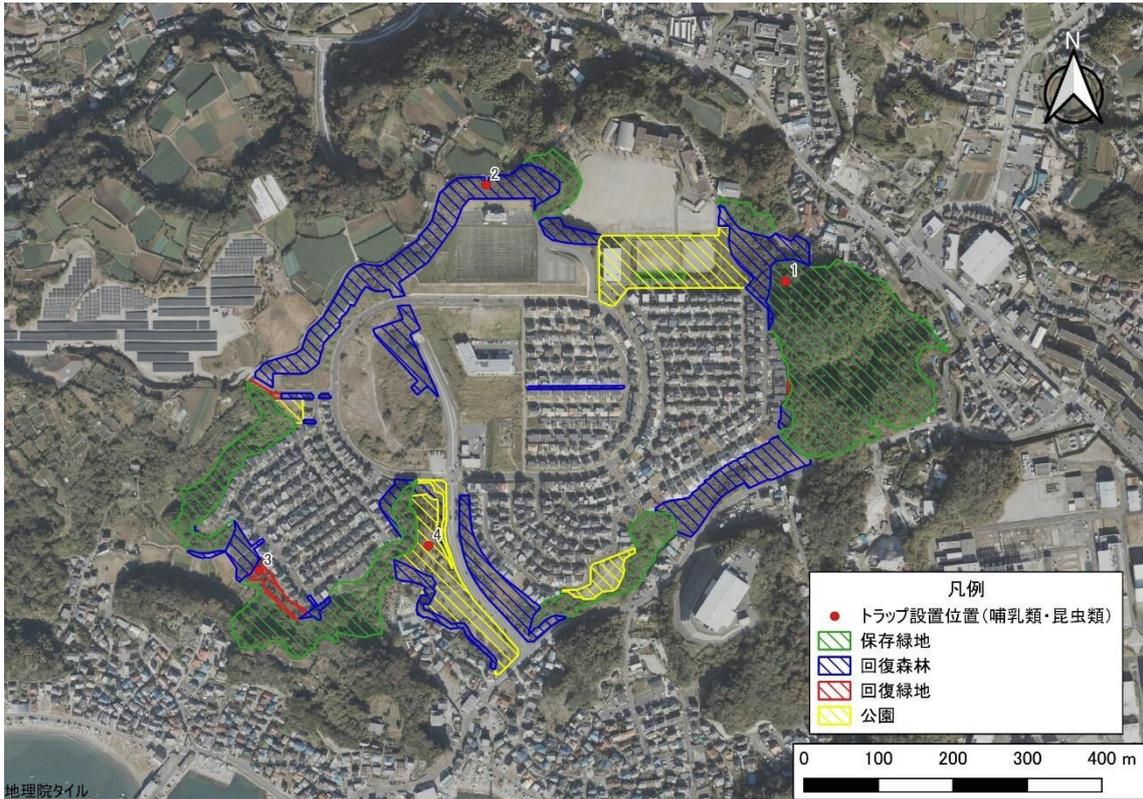


図 2.2.2 トラップ設置位置図

ロ. 鳥類

現地調査実施日は表 2.2.8 に示すとおりである。

表 2.2.8 現地調査実施日（鳥類）

分類	項目	季節	実施日
鳥類相	直接観察法	春季	令和6年4月25日
		夏季	令和6年6月27日
		秋季	令和6年9月24日
		冬季	令和7年1月15日
ラインセンサス調査、繁殖調査		春季	令和6年4月25日
		夏季	令和6年6月27日
		秋季	令和6年9月24日
		冬季	令和7年1月15日
定点調査		冬季	令和7年1月15日

①鳥類相調査

・直接観察法

調査範囲内の任意調査ルートを実線センサスとして踏査しながら出現した鳥類の種類を記録した。また、ラインセンサス調査時間外も調査範囲を任意に調査する。確認された種は、種名と確認地点を記録した。

②ラインセンサス調査

実施区域を代表する表 2.2.9 及び図 2.2.3 に示す合計4本(R1~4)のルート上を一定速度（時速1~2km程度）で踏査しながら左右各25m内に出現する鳥の種類、個体数及び確認地点を記録した。

③繁殖調査

繁殖調査は鳥のさえずり、巣の状況等を鳥類相調査時に併せて調査した。

表 2.2.9 ラインセンサスルートの概要

ルート	概要
L1	歩道沿いに植栽された法面の回復森林、草地と植栽木からなる公園、それに続く親水公園のビオトープを含むセンサスルート。樹林、草地、湿地環境からなる。
L2	芝地と植栽木からなる公園内のセンサスルートで、北西側は居住ゾーン、南東側は保存緑地に接する。樹林及び草地環境からなる。
L3	グラウンドと植栽木からなる公園、法面の回復森林、保存緑地を含むセンサスルートで、南西端付近は居住ゾーンに接する。樹林及び草地環境からなる。
L4	稜線部の歩道上に設定されたセンサスルートで、南側は斜面の回復森林、北側は耕作地や樹林、裸地等が続く。樹林及び草地、耕作地、裸地環境からなる。

④ 定点調査

表 2.2.10 に示す P1～P3 の 3 地点において、鳥類の生息状況、移動状況等について、定点調査を行った。

調査は、6:30～16:30 まで連続して定点で観察し、出現した鳥類の種類を確認した。特に猛禽類については、各定点間で連絡を取り合いながら飛翔経路が分かるようにした。早朝(7:00～7:30)、午前(10:00～10:30)、午後(13:00～13:30)には、出現した種数と個体数を確認し、記録した。

なお、同日にはラインセンサス調査、鳥類相調査も行った。

表 2.2.10 定点調査地点の概要

地点	概要
P1	佐島の丘北西部の稜線上に設定された定点。北東～南～南西方向は回復森林で遮られるが、北東～北～南西方向は視界が開けて広く見渡せる。
P2	佐島の丘最上部の公園内に設定された定点。南側は居住ゾーンの住宅地、東側は回復森林に遮られるが、北東～北～西方向は視界が開けて広く見渡せる。
P3	佐島の丘下部の公園内に設定された定点。北東～北～南西方向は居住ゾーンで住宅地に遮られるが、東～南～南西方向は視界が開けて広く見渡せる。

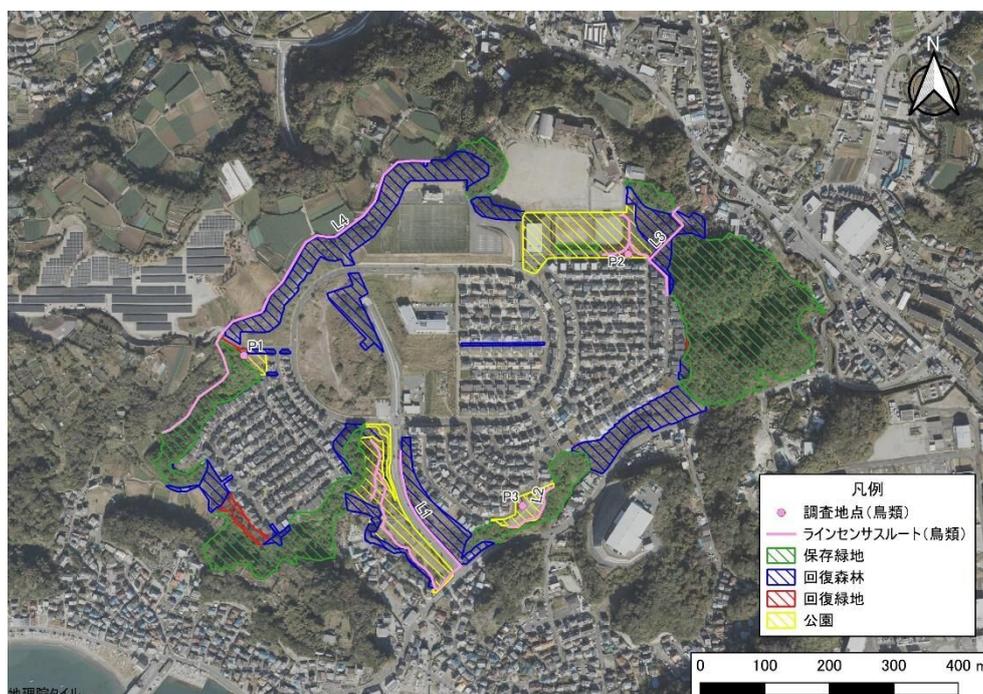


図 2.2.3 調査定点及びラインセンサスルート位置図

ハ. 両生類・爬虫類

①両生類相・爬虫類相調査

現地調査実施日は表 2.2.11 に示すとおりである。

表 2.2.11 現地調査実施日（両生類・爬虫類）

分類	項目	季節	実施日
両生類相・ 爬虫類相	目視調査・鳴き声調査	春季	令和6年4月15～17日
		夏季	令和6年7月3～5日
		秋季	令和6年10月1～3日
	卵のう確認調査（トウキョウサンショウウオ）	春季	令和6年4月15～17日

・目視調査

実施区域内の任意調査ルートを踏査し、目視観察による生息種の確認を行った。確認された種は、種名と確認地点を記録した。

・鳴き声調査

カエル類については鳴き声による確認も行った。確認された種は、種名と確認地点を記録した。

・卵のう確認調査（トウキョウサンショウウオ）

早春季はトウキョウサンショウウオの産卵期にあたることから、親水公園を中心に卵のう確認調査を実施した。

二. 昆虫類

現地調査実施日は表 2.2.12 に示すとおりである。

表 2.2.12 現地調査実施日（昆虫類）

分類	項目	季節	実施日
昆虫類相	ベイトトラップ調査、 ライトトラップ調査、 直接観察調査	春季	令和6年5月21～23日
		夏季	令和6年7月3～5日
		秋季	令和6年10月1～3日
	ホタル類確認調査	夏季	令和6年6月7日、14日、20日、 27日、7月4日
ミドリシジミ類確認調査		夏季	令和6年6月7日、14日、20日、 27日、7月4～5日

①昆虫類相調査

・直接観察調査

環境や生態的特性の違いを考慮して調査範囲の任意調査ルートを踏査し、スweeping法、ビーティング法及びルッキング法等を併用して、生息する昆虫類の目視及び採集による確認調査を実施した。確認された種は、種名と確認地点を記録した。

・ベイトトラップ調査

実施区域内の表 2.2.13 及び図 2.2.4 に示す4調査地点において誘引物質（餌）を入れたカップを1地点あたり15個埋設し、主として地上徘徊型の昆虫類を採集した。採集試料は持ち帰り、種の同定及び計測を行った。

・ライトトラップ調査

灯火により昆虫を誘引する方法であり、実施区域の4地点で、ライトトラップを設置した。ボックス法を採用し、調査時間は日没から翌朝までした。採集試料は持ち帰り、種の同定及び計数を行った。

表 2.2.13 バイトトラップ及びライトトラップ調査地点の概要

地点	環境概要	景観
1	保存緑地内に設定された地点。常緑広葉樹林内にあり、周辺は樹木が繁茂した閉塞空間となっているため林内は暗い。林床に下草は少なく、落葉が堆積して落葉層は厚い。	
2	回復森林内に設定された地点。常緑広葉樹林の林縁部にあり、周辺は落葉広葉樹やアズマネザサが繁茂した閉塞空間となっている。下草が地上を覆い、落葉層は薄い。	
3	回復緑地に設定された地点。常緑広葉樹林の林縁部にあり、周辺は樹木やアズマネザサが繁茂した閉塞空間となっているため林内は暗い。林床に下草は少なく、落葉層は厚くない。	
4	親水公園内に設定された地点。湿地と樹林の境界で、湿地は低茎・高茎草本、樹林は常緑広葉樹が繁茂した閉塞空間となっている。湿地は下草が繁茂し樹林内は落葉が厚く堆積する。	

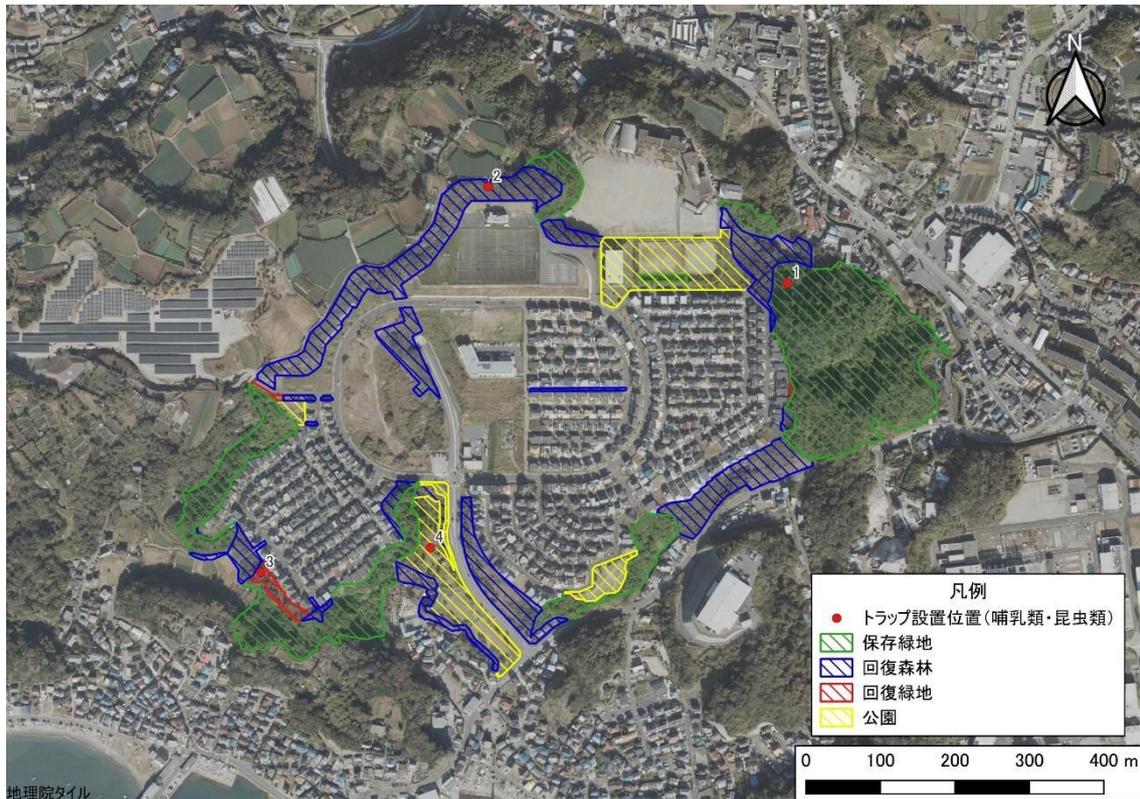


図 2.2.4 トラップ設置位置図

④ホタル類及びミドリシジミ類確認調査

いずれも成虫を確認しやすい期間が6月頃に限定されているため、活動時間等を考慮し、ホタル類では夜間(20~22時)に、ミドリシジミ類では夕刻(15~17時)を中心として目視による調査を実施した。確認種は、個体数とともに確認場所(確認範囲)の記録を行った。なお、ホタル類は整備した親水公園の湿地において、ヘイケボタルの生息状況(6~7月に5回)を確認した。

ホ. 土壤動物

①土壤動物相調査

現地調査実施日は表 2.2.14 に示すとおりである。

図 2.2.5 及び表 2.2.15 に示す実施区域の植生状況を考慮して選定された 10 地点を対象とし、50cm×50cm の枠内で地表面から 10cm 下までに出現した土壤動物を定性採取し、ふるい法により種の同定を行った。

表 2.2.14 現地調査実施日（土壤動物）

分類	項目	季節	実施日
土壤動物	直接観察調査（ふるい法）	夏季	令和 6 年 7 月 8 日

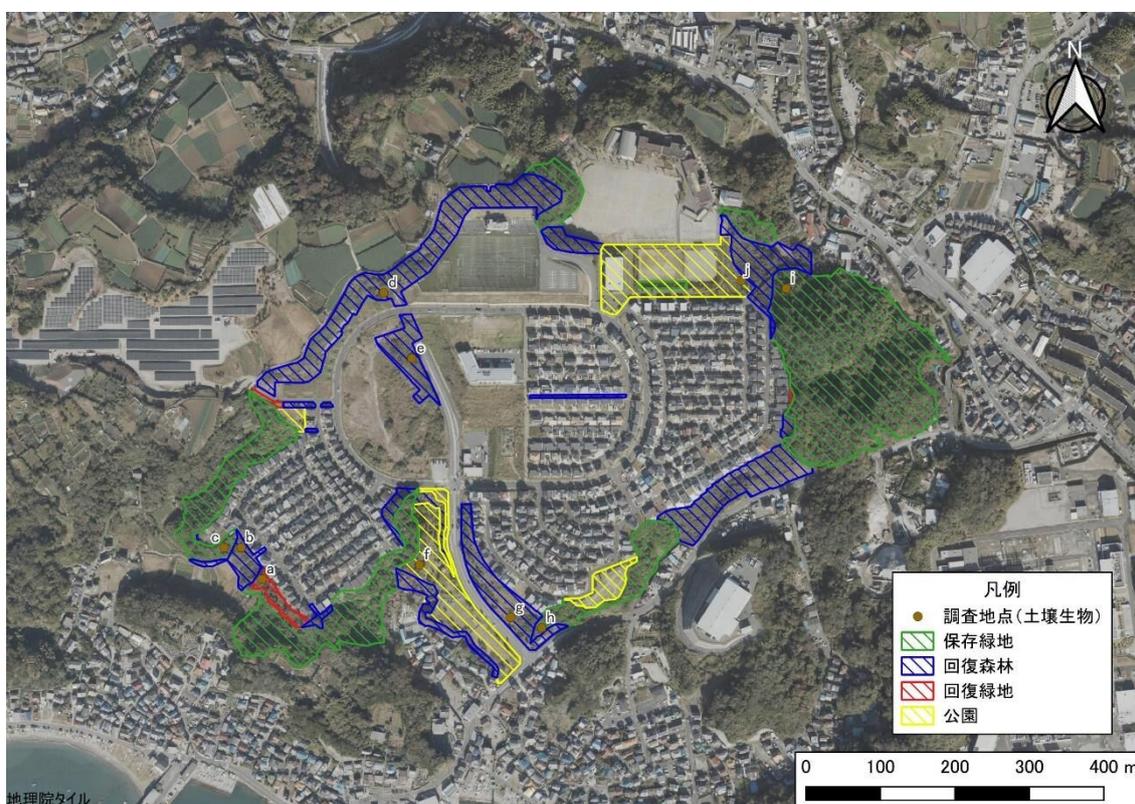


図 2.2.5 調査地点位置図（土壤生物）

表 2.2.15(1) 土壤生物調査地点の概要

地点	環境概要	景観
a	回復緑地に設定された地点。常緑広葉樹林内にあり、周辺は樹木やアズマネザサが繁茂した閉塞空間のため林内は暗い。林床には下草が密生し、落葉層は厚く土壌は比較的発達する。	
b	回復森林内に設定された地点。常緑広葉樹林内にあり、常緑樹やアズマネザサが密生した閉塞空間のため林内は暗い。林床の下草は少なく、落葉層は薄く土壌はあまり発達していない。	
c	保存緑地内に設定された地点。常緑広葉樹林内にあり、常緑樹やつる植物、アズマネザサ等が密生した閉塞空間のため林内は暗い。林床の下草は少ないが落葉層は厚く、土壌が発達する	
d	回復森林内に設定された地点。常緑広葉樹林内にあり、常緑樹やアズマネザサが密生した閉塞空間のため林内は暗い。林床は下草が繁茂。落葉層は薄く土壌はあまり発達していない。	
e	回復森林内に設定された地点。植栽されてから日が浅いために樹木は小さく開放空間となっている。客土された土砂が地表に露出しており、その上に草本類が繁茂する。落葉層はほとんど見られず、土壌は未発達。	

表 2.2.15(2) 土壤生物調査地点の概要

番号	環境概要	景観
f	公園内に設定された地点。常緑広葉樹林と草地の境界付近にある。普段は草地で低茎及び高茎草本が繁茂するが、除草直後の半裸地となっている。落葉層は薄く、土壌は未発達。	
g	回復森林内に設定された地点。常緑広葉樹が植樹され、林縁は高茎草本が繁茂する。林内は閉塞空間だが日射は入る。下草が地上を覆い落葉層は薄い。土壌はあまり発達していない。	
h	保存緑地内に設定された地点。常緑広葉樹林の林縁部にあり、周辺は樹木やアズマネザサが繁茂した閉塞空間のため林内は暗い。林床に下草は少ない。落葉層は厚く土壌が発達する。	
i	保存緑地内に設定された地点。常緑広葉樹林内にあり、周辺は常緑樹やつる植物が繁茂した閉塞空間のため林内は暗い。林床に下草は少ない。落葉層は厚く土壌が発達する。	
j	回復森林内に設定された地点。植栽されたクヌギが点在する開放空間。下草には高茎草本が密生。客土された土砂が地表に露出しており、その上に草本類が繁茂する。落葉層はほとんど見られず、土壌は未発達。	

(3) 水生生物

イ. 底生生物（ベントス）

①底生生物相調査

現地調査実施日は表 2.2.16 に示すとおりである。

図 2.2.6 に示す 2 地点において、D-フレームネットによる定性採取（網枠が D 型のタモ網を用いて様々な箇所での採集を行うこと）を実施した。なお、予測評価時は実施区域内の調査地点の流心付近に 50cm×50cm のコドラートを設定し、サーバーネットを用いた定量採取（流れのあるところに網目の細かいネットの付いた方形枠を設置して、決められた量の採集を行うこと）を実施していたが、50 cm以上の川幅と流れのあるところがなかったため実施しなかった。

表 2.2.16 現地調査実施日（水生生物）

分類	項目	季節	実施日
底生生物相	定性採取	春季	令和 6 年 4 月 25 日
		夏季	令和 6 年 7 月 8 日

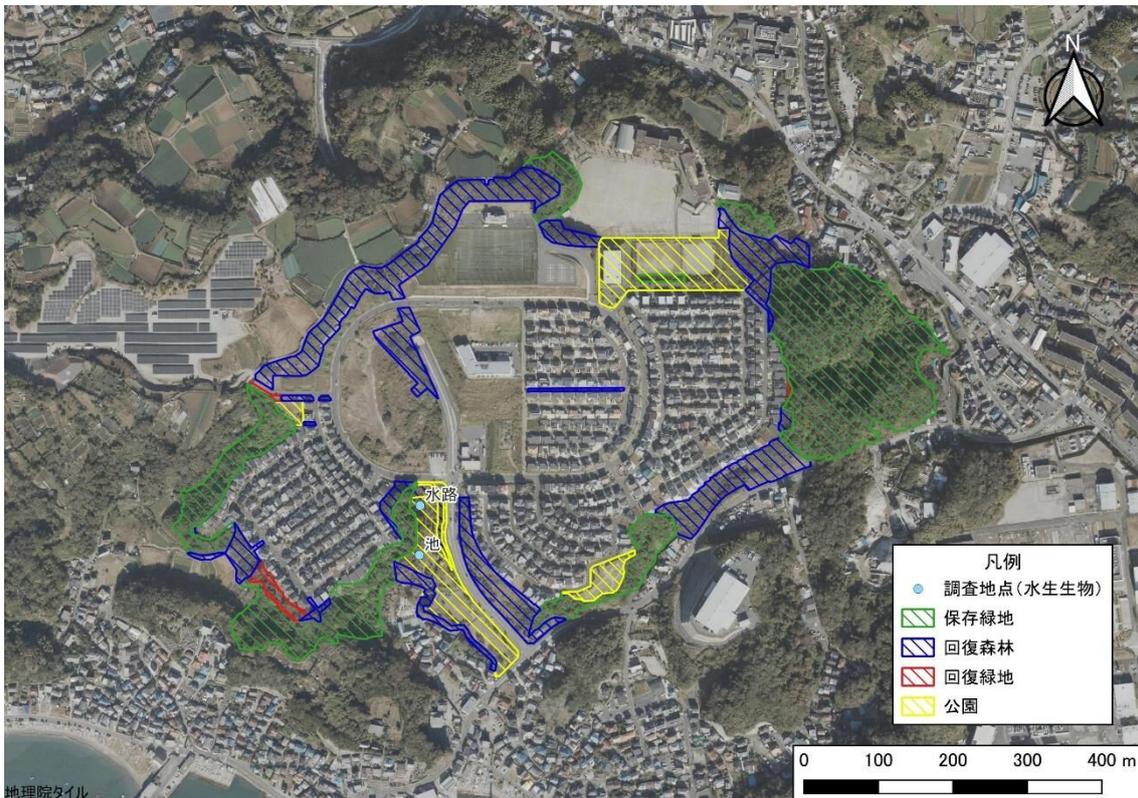


図 2.2.6 水生生物の調査地点

地点	環境概要	景観
水路	<p>湿地公園内に設定された地点。流量は多くないものの、わずかに水が流れている。上流側の水際部は石組みが施されており、下流側の水際部はカサスゲ等の湿性植物が繁茂する。</p>	
池	<p>湿地公園内に設定された地点。水際はヨシやガマ等の抽水植物が繁茂する。水深は急深となっており、河床は泥質である。</p>	

第3章 景観

1) 事後調査事項

事後調査事項は、対象事業の実施に伴う景観の変化の状況とした。

2) 事後調査範囲

事後調査範囲は、主要な展望地点からの景観が変化すると想定される予測及び当該範囲を展望できる主要な展望地点を含む範囲とした。

3) 事後調査時点

事後調査時点は、工事完了後とした。

4) 事後調査方法

(1) 事後調査地点

事後調査地点は、表 2.3.1 及び図 2.3.1 に示した予測地点とした。

表 2.3.1 展望地点の景観の構成要素と現況景観

図面番号	名称	景観の構成要素	現況景観	可視状況
①	大楠平展望所 (ハイキングコース) (大楠山展望所の代替地点)	<ul style="list-style-type: none"> ・大楠山の西側尾根 ・佐島の丘陵地 ・小田和湾 ・長井地区 ・相模湾 ・伊豆大島 	(標高 210m)は 360 度のパノラマ的な眺望ができる。実施区域は南西方向に約 3km の地点に、大楠山からの稜線の大楠山展望所延長として丘陵地の合間に展望される。冬季は落葉のため比較の見通しはよいが、春～秋季にかけては樹林の隙間から実施区域が眺望される程度である。なお、大楠山展望所は老朽化により閉鎖されていたため、大楠平展望所から眺望する。	○
②	武山不動	<ul style="list-style-type: none"> ・武山地区、長坂地区の住宅地 ・佐島の丘陵地 ・相模湾 ・富士山 	(標高 200m)からは、武山、林、長坂地区の住宅地の背後に佐島の丘陵と相武山不動の住宅地模湾が展望される。実施区域は、冬季は展望地点の樹林が主に落葉樹であるため比較の見通しはよいが春～秋季にかけては樹林の隙間から眺望される程度である。	○
③	富浦公園	<ul style="list-style-type: none"> ・小田和湾 ・佐島漁港 ・佐島の丘陵地 ・佐島半島に連なる尾根 	小田和湾を中間にはさんで遠景に実施区域のある佐島の丘陵と三浦半島の稜線を眺望することができる。稜線の緑と漁港及び海は三浦半島の代表的な景観である。	○
④	長坂公園付近	<ul style="list-style-type: none"> ・長坂地区の住宅地 ・佐島の丘陵地 	長坂公園付近からは長坂 3 丁目、4 丁目の住宅地をはさんで佐島の丘陵を展望でき、長坂公園付近実施区域に隣接する市立大楠中学校が望まれる。実施区域を東側からほぼ水平に見る位置にある。	○
⑤	長坂 3 丁目、荻野、太田和 2 丁目付近の住宅地	<ul style="list-style-type: none"> ・長坂地区の住宅地 ・電力中央研究所等の中高層建築物 ・佐島の丘陵地 	荻野公園付近の住宅地内から長坂 3 丁目及太田和 2 丁目付近及び荻野の住宅地をはさんで佐島の丘陵地が展望される。	○

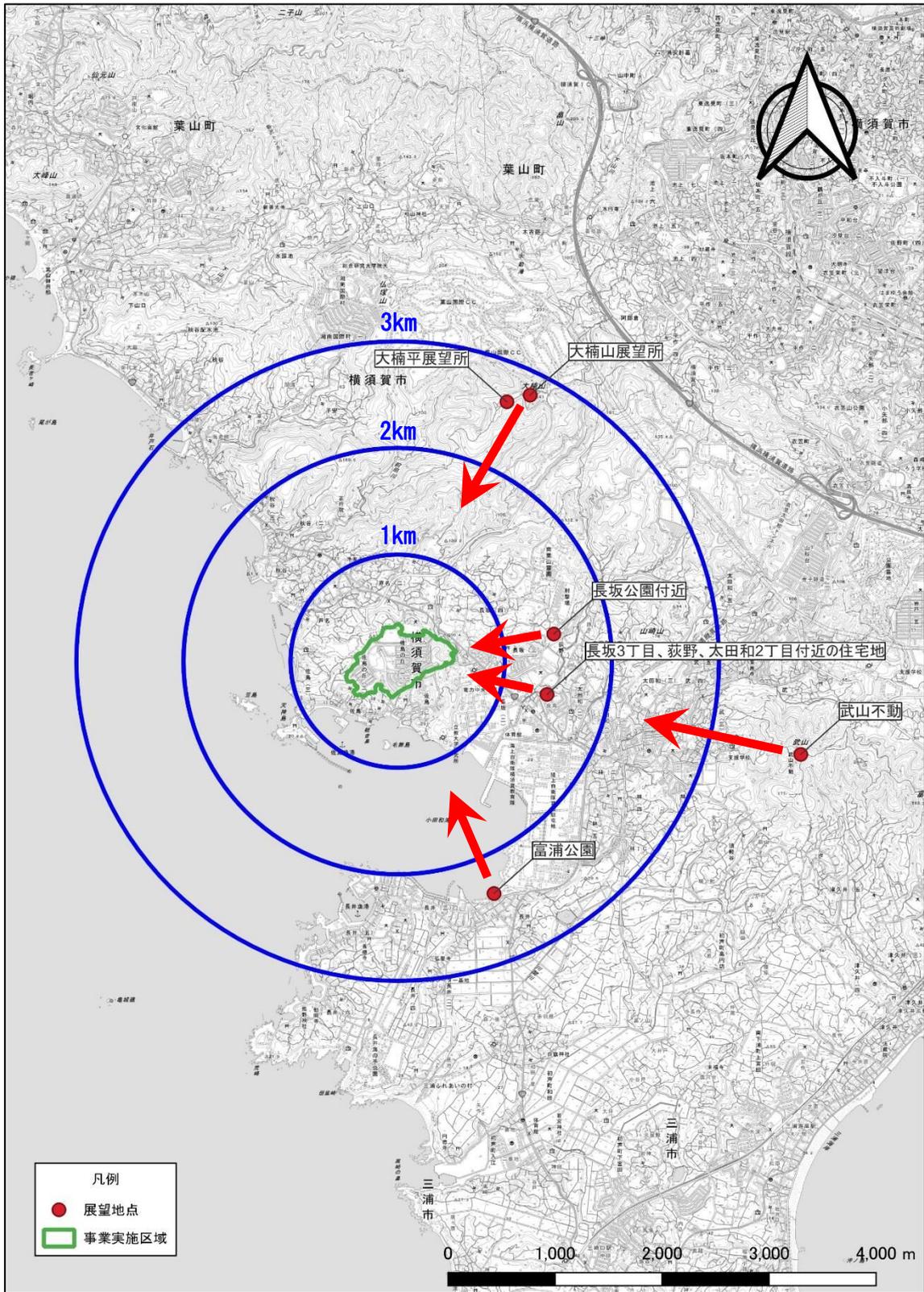


図 2.3.1 景観の展望地点

(2) 事後調査期間及び時期

事後調査期間は、工事完了後の冬季とした。

(3) 事後調査方法

事後調査方法は、写真撮影とした。

(4) 検証方法

現地調査実施日は表 2.3.2 に示すとおりである。

表 2.3.2 現地調査実施日（景観）

調査項目	季節	実施日
景観	冬季	令和7年1月14日

別添 3. 事後調査の結果

第 1 章 植物（注目すべき植物種、植物群落）	35
第 2 章 植物・動物・生態系	40
第 3 章 景観	132

別添 3. 事後調査の結果

第1章 植物（注目すべき植物種、植物群落）

令和6年度は、前年に引き続き、移植した植物の活着状況調査を実施した。活着状況は、表 3.1.1 及び図 3.1.1 (1)～(9) に示すとおりである。

移植した種については、概ね開花状況や生育状況に大きな変化は見られず、良好な生育が続いている。

ヨメナについては、平成28年度に草刈りの刈り草を移植地に積まれたことにより、生育個体が見出せなかった。それ以降も再確認することができず、消失した可能性が高い。

表 3.1.1 移植した注目すべき種及び群落の確認状況

移植した種	確認状況
エビネ	平成 13 年度に移植後、平成 14 年度から毎年新たな芽が確認され、また平成 15 年度から毎年春季に開花が確認できていることから、良好な生育状況が続いているものと思われる。
コクラン	平成 13 年度に移植後、平成 14 年度から毎年新たな芽が確認され、また平成 15 年度から毎年開花を示す花茎が確認できていることから、良好な生育状況が続いているものと思われる。
ヨメナ	<p>平成 16 年度の当初の移植先において、セイタカアワダチソウ等の高茎草本の繁茂が著しく、平成 16 年度から毎年草刈を実施し、生育環境の改善を行いながら、維持管理に努めてきたが、高茎草本の繁茂に起因する生育阻害が否めないことから、平成 19 年度の春季に再移植を実施した。再移植後は、毎年夏季から秋季にかけて、成長した個体の開花が確認できた。平成 27 年度は、近隣住民により実施されたとと思われる草刈りにより開花が確認できなかったが、新たな芽の伸長は確認できた。</p> <p>平成 28 年度には刈り草が移植地に積まれたため、個体の確認ができなかった。それ以降、毎年調査を実施しているが、個体の再確認ができず、すでに消失した可能性が高いものと思われる。令和 6 年度も生育は確認できなかった。</p>
マテバシイ群落	<p>平成 13 年度に移植したマテバシイ 26 本、シロダモ 5 本、モチノキ 1 本及びタブノキ 2 本のうち、平成 14 年度の春季から秋季にかけてマテバシイ 6 本及びシロダモ 1 本が枯れていることを確認した。それ以外の移植木については葉の状況が良好であり、活着していると思われた。</p> <p>平成 14 年度に枯死した幼木以外は、春季に新しい芽が確認でき、葉の状況も概ね正常であることから、引き続き良好な生育状況が続いているものと思われる。</p>
ヤブコウジース ダジイ群集	<p>平成 14 年度にスダジイの幼木 3 本を移植適木としてポットに植栽し、ポットでの養生後、平成 16 年度の冬季に移植先として選定した丸山地区の保全緑地内に移植した。</p> <p>令和 6 年度もこれまで同様、新芽の伸長が確認され、良好な生育状況が続いているものと思われる。</p>
タチヤナギ群落	<p>平成 14 年度に湿地表土の移植と同時に仮移植した。平成 15 年、16 年及び 17 年度の春季から夏季にかけて主要な構成種であるタチヤナギとカサスゲが繁茂した。その後、平成 18 年度に、整備された親水公園への定植を実施し、冬季に冬芽の形成を確認している。</p> <p>令和 6 年度もこれまで同様、春季から夏季にかけて、新芽の展開及び伸長等が確認できていることから、良好な生育状況が続いているものと思われる。</p>



図 3.1.1 (1)
注目すべき植物種

エビネ
(移植後)



図 3.1.1 (2)
注目すべき植物種

コクラン
(移植後)



図 3.1.1 (3)
注目すべき植物種

ヨメナ
(移植地の状況)



図 3.1.1 (4)
注目すべき植物群落
マテバシイ群落 (タブ
ノキ)

(移植後)



図 3.1.1 (5)
注目すべき植物群落
マテバシイ群落 (モチ
ノキ)

(移植後)



図 3.1.1 (6)
注目すべき植物群落
マテバシイ群落 (シロ
ダモ)

(移植後)



図 3.1.1 (7)
注目すべき植物群落
マテバシイ群落 (マテバシイ)
(移植後)



図 3.1.1 (8)
注目すべき植物群落
ヤブコウジースダジイ群落 (スダジイ)
(移植後)



図 3.1.1 (9)
注目すべき植物群落
タチヤナギ群落 (タチヤナギ)
(移植後)

第2章 植物・動物・生態系

1) 植物

(1) 植物相

イ. 植物相調査

調査範囲において生育が確認された維管束植物は、表 3.2.1～表 3.2.3 に示すとおり合計 44 目 98 科 381 種類が確認された。

調査範囲の環境は、森林の卓越する保存緑地、造林が進められた回復森林、低木や草地在る回復緑地及び公園（親水公園を含む）から成っている。このような環境を反映して、保存緑地ではアスカイノデ、タブノキ等の照葉樹林で見られる種やケスゲ、エゴノキ等のコナラ林で見られる種が主体であった。回復森林では、導入された樹林生の種のほかに、周囲から伝播したアズマネザサ、アカメガシワ等の林縁・低木林の種やススキ等の草地在る回復緑地で見られる種が多くみられた。回復緑地ではイヌビワ、ガマズミ等の林縁・低木林の種やスギナ、ヨモギ等の草地在る回復緑地で見られる種が多かった。公園ではチガヤ、ヤハズエンドウ等の草地在る回復緑地で見られる種が多いほか、創出された親水公園にはヨシ、カサスゲ等の湿地で見られる種の生育が特徴的であった。そのほかマンテマ等の帰化植物が多く出現した。

表 3.2.1 植物確認種数内訳

上位分類群	目数	科数	種数		
			全体	春季	夏季
シダ植物門	4	9	25	23	20
ヒカゲノカズラ綱	0	0	0	0	0
大葉シダ綱	4	9	25	23	20
種子植物門	40	89	356	250	290
裸子植物亜門	2	3	3	3	2
被子植物亜門	38	86	353	247	288
全体	44	98	381	273	310

注1) 分類及び名称は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和6年度生物リスト」に従った。

注2) 全体の種数は春季と夏季で重複する種を除いた種数である。

表 3.2.2 季節別の植物確認種 (1/5)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	調査時期			
							春季	夏季		
1	シダ植物	-	大葉シダ綱	トクサ	トクサ	スギナ	○	○		
2				ゼンマイ	ゼンマイ	ゼンマイ	○	○		
3				フサシダ	カニクサ	カニクサ	○	○		
4				ウラボシ	コバノイシカグマ	フモトシダ	○	○		
5					イノモトソウ	ホウライシダ	○	○		
6						オオバノイノモトソウ	○	○		
7						ハチジョウシダ	○	○		
8						マツサカシダ	○	○		
9					ヒメシダ	ミドリヒメワラビ	○	○		
10						ホシダ	○	○		
11						ミゾシダ	○	○		
12					シシガシラ	コモチシダ	○	○		
13					メシダ	イヌワラビ	○	○		
14					オシダ	リョウメンシダ	○	○		
15						ナガバヤブソテツ	○	○		
16						オニヤブソテツ	○	○		
17						テリハヤブソテツ	○	○		
18						ヤマイタチシダ	○	○		
19						ベニシダ	○	○		
20						ベニオオイタチシダ	○	○		
21						キンキイタチシダ	○	○		
22						クマワラビ	○	○		
23						オクマワラビ	○	○		
24						アイノコクマワラビ	○	○		
25						アスカイノデ	○	○		
26	種子植物	裸子植物亜門	-	ナンヨウスギ		マキ	イヌマキ	○	○	
27				ヒノキ	ヒノキ	スギ	○	○		
28				イチイ	イヌガヤ	○	○			
29		被子植物亜門	-	シキミ	マツブサ	サネカズラ	○	○		
30				コショウ	ドクダミ	ドクダミ	○	○		
31					コショウ	フウトウカズラ	○	○		
32					ウマノスズクサ	オオバウマノスズクサ	○	○		
33				クスノキ	クスノキ	ヤブニッケイ	○	○		
34						ゲッケイジュ	○	○		
35						タブノキ	○	○		
36						シロダモ	○	○		
37				単子葉類	-	オモダカ	サトイモ	ウラシマンソウ	○	○
38								アオウキクサ	○	○
39								コウキクサ	○	○
40						ヤマノイモ	ヤマノイモ	ヤマノイモ	○	○
41								オニドコロ	○	○
42		ユリ	イヌサフラン			チゴユリ	○	○		
43			サルトリイバラ			サルトリイバラ	○	○		
44						シオデ	○	○		
45			ユリ			ヤマユリ	○	○		
46						シンテッポウユリ	○	○		
47						ホトトギス	○	○		
48		クサスギカズラ	ラン			シラン	○	○		
49						エビネ	○	○		
50						シュンラン	○	○		
51						コ克蘭	○	○		
52						ネジバナ	○	○		
53						アヤメ	ヒメヒオウギズイセン	○	○	
54							ニワゼキショウ	○	○	
55						ススキノキ	ヤブカンゾウ	○	○	
56						ヒガンバナ	ノビル	○	○	
57							ハナニラ	○	○	
58		ヒガンバナ	○				○			
59		クサスギカズラ	ヤブラン			ヤブラン	○	○		
60						ノシラン	○	○		
61						ジャノヒゲ	○	○		
62						ナガバジャノヒゲ	○	○		
63						ナルコユリ	○	○		
64						アマドコロ	○	○		
65						オモト	○	○		
66		ヤシ	ヤシ			マカラニ	○	○		
67						フェニックス	○	○		
68						シュロ	○	○		
69		ツユクサ	ツユクサ			ツユクサ (広義)	○	○		
70						ヤブミョウガ	○	○		
71						ノハカタカラクサ	○	○		
72		ショウガ	ショウガ			ミョウガ	○	○		
73		イネ	ガマ			ガマ	○	○		
74				イグサ	スズメノヤリ	○	○			
75				カヤツリグサ	メアオスゲ	○	○			
76				カサスゲ	○	○				
77				ケスゲ	○	○				

表 3.2.2 季節別の植物確認種 (2/5)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	調査時期							
							春季	夏季						
78	種子植物	被子植物亜門	単子葉類	イネ	カヤツリグサ	マスクサ	○	○						
79						ヒカゲスゲ	○	○						
80						ナキリスゲ	○	○						
81						アオスゲ	○	○						
82						ノゲスカスゲ	○							
83						アイノコシラスゲ	○							
84						ヤワラスゲ	○							
85						ヒメクグ		○						
86						メリケンガヤツリ		○						
87						ハマスゲ		○						
88						メリケンカルカヤ	○							
89						コブナグサ		○						
90						ヤマカモジグサ		○						
91						コバンソウ	○	○						
92						ヒメコバンソウ	○	○						
93						イヌムギ	○	○						
94						スズメノチャヒキ		○						
95						キツネガヤ		○						
96						ギョウギシバ		○						
97						カモガヤ	○	○						
98						メヒシバ		○						
99						イヌビエ		○						
100						オヒシバ		○						
101						アオカモジグサ	○	○						
102						カモジグサ	○	○						
103						シナダレスズメガヤ		○						
104						コスズメガヤ		○						
105						ナルコビエ		○						
106						ドジョウツナギ	○							
107						チガヤ	○	○						
108						ササガヤ		○						
109						ネズミムギ	○	○						
110						オギ		○						
111						ススキ	○	○						
112						コチヂミザサ	○	○						
113						ケチヂミザサ	○	○						
114						シマスズメノヒエ		○						
115						タチスズメノヒエ		○						
116						ヨシ		○						
117						ハチク		○						
118						マダケ	○	○						
119						アズマネザサ	○	○						
120						キボウシノ	○	○						
121						メダケ	○	○						
122						ミゾイチゴツナギ	○							
123						ツルスズメノカタビラ	○							
124						イチゴツナギ		○						
125						オオスズメノカタビラ		○						
126						タマオオスズメノカタビラ	○							
127						ヒエガエリ	○	○						
128						オニウシノケグサ	○	○						
129						アキノエノコログサ		○						
130						エノコログサ		○						
131						ナギナタガヤ		○						
132						シバ	○	○						
133						コウライシバ		○						
134						真正双子葉類	キンボウゲ	ケン	ムラサキケマン	○	○			
135									ナガミヒナゲシ	○				
136									アケビ	アケビ	○	○		
137									ミツバアケビ	○	○			
138									ツツラフジ	アオツツラフジ	○	○		
139									メギ	メギ	○	○		
140										ナンテン	○	○		
141										キンボウゲ	ニリンソウ	○		
142											センニンソウ	○	○	
143											タガラシ	○		
144											ヒメウス	○		
145											アキカラマツ	○	○	
146										ユキノシタ	ユズリハ	○	○	
147											バンケイソウ	コモチマンネングサ	○	
148										ブドウ	ブドウ	ノブドウ	○	○
149									ヤブカラシ	○	○			
150									ツタ	○	○			
151									エビヅル	○	○			
152							マメ	マメ	ネムノキ		○			
153									イタチハギ		○			
154									ヤブマメ		○			
155									アレチヌスビトハギ		○			

表 3.2.2 季節別の植物確認種 (3/5)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	調査時期		
							春季	夏季	
156	種子植物	被子植物亜門	真正双子葉類	マメ	マメ	カイコウズ		○	
157						ツルマメ	○	○	
158						ヤハズソウ		○	
159						メドハギ	○	○	
160						ネコハギ		○	
161						セイヨウミヤコグサ		○	
162						ミヤコグサ		○	
163						クズ	○	○	
164						タンキリマメ	○	○	
165						クスダマツメクサ		○	
166						コメツブツメクサ	○	○	
167						ムラサキツメクサ	○	○	
168						シロツメクサ	○	○	
169						スズメノエンドウ		○	
170						ヤハズエンドウ	○	○	
171						カスマグサ	○		
172						ナンテンハギ	○		
173				フジ	○	○			
174				バラ	グミ	オオバグミ	○	○	
175						ナワシログミ		○	
176						アキグミ	○	○	
177						ニレ	ケヤキ	○	○
178							アサ	ムクノキ	○
179					エノキ	○	○		
180					カナムグラ	○	○		
181				バラ	クワ	ヒメコウゾ		○	
182						クワクサ		○	
183						イヌビワ	○	○	
184						イタビカズラ	○	○	
185						ヤマグワ	○	○	
186					イラクサ	ハマヤブマオ		○	
187						カラムシ	○	○	
188						アオミズ		○	
189						イラクサ		○	
190					バラ	バラ	サトザクラ	○	
191							オオシマザクラ	○	○
192							ソメイヨシノ	○	
193							ビワ	○	○
194							ダイコンソウ	○	○
195							コゴメウツギ	○	○
196							ヘビイチゴ	○	○
197							ヤブヘビイチゴ	○	○
198				カマツカ			○	○	
199				シャリンバイ			○		
200				テリハノイバラ			○	○	
201				ノイバラ			○	○	
202				クサイチゴ			○	○	
203				モミジイチゴ			○	○	
204				ナワシロイチゴ	○	○			
205				ブナ	ブナ	クリ	○		
206						スダジイ	○	○	
207						マテバシイ	○	○	
208						アカガシ	○	○	
209						クスギ	○	○	
210						アラカシ	○	○	
211						シラカシ		○	
212						ウバメガシ	○		
213						コナラ	○	○	
214						カバノキ	○	○	
215							オオバヤシャブシ	○	○
216				ウリ	ウリ	カラスウリ		○	
217				ニシキギ	ニシキギ	ツルウメモドキ	○	○	
218						ニシキギ		○	
219						マサキ	○	○	
220						ツルオオバマサキ		○	
221						マユミ	○	○	
222				カタバミ	カタバミ	カタバミ	○	○	
223						ムラサキカタバミ		○	
224						オウタチカタバミ	○	○	
225						オオキバナカタバミ	○		
226				キントラノオ	トウダイグサ	エノキグサ		○	
227						コニシキソウ		○	
228						アカメガシワ	○	○	
229						ナンキンハゼ		○	
230						ヤナギ	タチヤナギ	○	○
231						スミレ	タチツボスミレ	○	○
232				フウロソウ	フウロソウ	アメリカフウロ	○		
233						ゲンノショウコ		○	

表 3.2.2 季節別の植物確認種 (4/5)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	調査時期					
							春季	夏季				
234	種子植物	被子植物亜門	真正双子葉類	フトモモ	ミソハギ	サルスベリ		○				
235					アカバナ	メマツヨイグサ		○				
236					ユマツヨイグサ	○	○					
237					ユウゲショウ	○	○					
238					ミツバウツギ	ミツバウツギ	ゴンズイ	○	○			
239						キブシ	エノシマキブシ	○	○			
240					ムクロジ	ウルシ	ヌルデ	○	○			
241								ハゼノキ	○	○		
242								ムクロジ	イロハモミジ		○	
243								ミカン	コクサギ	○	○	
244									カラスザンショウ	○	○	
245									サンショウ		○	
246									ニガキ	ニガキ		○
247							アブラナ	アブラナ	ナズナ	○		
248										ミチタネツケバナ	○	
249										タネツケバナ	○	
250						タデ			イタドリ	○	○	
251									ミスヒキ	○	○	
252									シロバナサクラタデ		○	
253									オオイヌタデ		○	
254									ボントクタデ		○	
255									ママコノシリヌグイ		○	
256									ミゾツバ	○	○	
257									スイバ	○	○	
258									ヒメスイバ		○	
259									アレチギシギシ	○	○	
260									ナガバギシギシ	○	○	
261									ギシギシ	○	○	
262									エゾノギシギシ		○	
263					ナデシコ	オランダミミナグサ			ツメクサ	○	○	
264										マンテマ		○
265										ウシハコベ	○	○
266										コハコベ	○	○
267								ヒユ	イノコヅチ		○	
268							ヒナタイノコヅチ		○			
269							シロザ	○	○			
270							アリタソウ		○			
271							ハマミズナ	ツルナ		○		
272					ミズキ	ミズキ	クマノミズキ	○	○			
273								ウツギ		○		
274								マルバウツギ	○	○		
275					ツツジ	サカキ	ハマヒサカキ	○	○			
276								ヒサカキ	○	○		
277								モッコク	○	○		
278								カキノキ	カキノキ		○	
279								サクラソウ	ヤブコウジ	○	○	
280									ヨナスビ	○	○	
281									ツバキ	ヤブツバキ	○	○
282									エゴノキ	エゴノキ	○	○
283									ツツジ	アセビ	○	○
284									ヤマツツジ	○	○	
285					アオキ	アオキ	アオキ	○	○			
286								アカネ	ヘクソカズラ	○	○	
287					リンドウ	キョウチクトウ	アカネ	○	○			
288								フウセントウワタ		○		
289								ガガイモ		○		
290								キョウチクトウ	○	○		
291								デイカズラ	○	○		
292								ツルニチニチソウ	○	○		
293							ナス	ヒルガオ	ヒルガオ		○	
294						ノアサガオ				○		
295						ナス			クコ	○	○	
296									ヒヨドリジョウゴ	○	○	
297									アメリカイヌホオズキ	○	○	
298					ムラサキ	ムラサキ	ホタルカズラ	○	○			
299								ハナイバナ	○	○		
300					シソ	モクセイ	ヤマトアオダモ		○			
301								ネズミモチ	○	○		
302								トウネズミモチ	○	○		
303								オオバイボタ		○		
304								キンモクセイ		○		
305							オオバコ	マツバウンラン	マツバウンラン	○	○	
306										オオバコ	○	○
307										ヘラオオバコ	○	○
308										タチイヌノフグリ	○	○
309										フラサソウ	○	○
310												
311												

表 3.2.2 季節別の植物確認種 (5/5)

No.	門名	亜門名	綱名	目名	科名	種名	調査時期				
							春季	夏季			
312	種子植物	被子植物亜門	真正双子葉類	シソ	オオバコ	オオイヌノフグリ	○	○			
313					シソ	キランソウ	○				
314						ムラサキシキブ		○			
315						クサギ	○	○			
316						カキドオシ	○	○			
317						ホトケノザ	○				
318						ヒメオドリコソウ	○				
319						マルバハッカ		○			
320						コバノタツナミ	○	○			
321						サギゴケ	トキワハゼ	○			
322						ハエドクソウ	ナガバハエドクソウ		○		
323						クマツヅラ	アレチハナガサ	○	○		
324						モチノキ	モチノキ	イヌツゲ	○	○	
325							モチノキ	モチノキ	○	○	
326							クロガネモチ		○		
327						キク	キク	オオバタクサ		○	
328								ヨモギ	○	○	
329								シロヨメナ		○	
330								ノコンギク	○	○	
331								アメリカセンダングサ		○	
332					コセンダングサ				○		
333				ベニバナボロギク				○			
334				アメリカタカサブロウ				○			
335				ヒメジョオン	○			○			
336				アレチノギク				○			
337				ヒメムカシヨモギ				○			
338				ハルジオン	○			○			
339				オオアレチノギク				○			
340				ツワブキ	○			○			
341				ハキダメギク				○			
342				ウラジロチチヨグサ	○			○			
343				チチヨグサ	○			○			
344				オオジシバリ	○						
345				アキノノゲシ	○			○			
346				ヤブタバコ	○						
347				ムラサキニガナ	○						
348				ヨウヤボウキ	○			○			
349				フキ	○			○			
350				コウゾリナ	○			○			
351				ハハコグサ				○			
352				セイタカハハコグサ				○			
353				セイタカアワダチソウ	○			○			
354				オニノゲシ				○			
355				ノゲシ	○			○			
356				セイヨウタンポポ	○	○					
357				カントウタンポポ	○						
358				アカオニタビラコ	○						
359				アオオニタビラコ		○					
360				セリ	トベラ	トベラ	○	○			
361						ウコギ	カクレミノ	○	○		
362							ヤマウコギ	○			
363							ヤツデ	○	○		
364							カナリーキツタ	○			
365							キツタ	○	○		
366							ノチドメ	○	○		
367							オオチドメ		○		
368							チドメグサ	○			
369							ハリギリ	○	○		
370							セリ	アシタバ	○	○	
371				ツボクサ	○	○					
372				ミツバ	○	○					
373				マツバゼリ		○					
374				セリ	○	○					
375				ヤブニンジン	○	○					
376				オヤブジラミ	○						
377				マツムシソウ	ガマズミ	ニワトコ		○			
378						ガマズミ	○	○			
379						サンゴジュ		○			
380						スイカズラ	スイカズラ	○	○		
381				ハコネウツギ	○		○				
合計2門2亜門3綱44目98科381種							273種	310種			

注1) 科名・種名・学名・配列は原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト「令和6年度生物リスト」』（国土交通省河川環境データベース、令和6年11月）に従った。

表 3.2.3 地点別の植物確認種 (1/6)

No.	目名	科名	種名	調査地点				
				保存 緑地	回復 森林	回復 緑地	親水 公園	公園
1	トクサ	トクサ	スギナ	○	○	○	○	○
2	ゼンマイ	ゼンマイ	ゼンマイ	○				
3	フサシダ	カニクサ	カニクサ	○	○	○		○
4	ウラボシ	コバノイシカグマ	フモトシダ	○				
5		イノモトソウ	ホウライシダ		○			
6			オオバノイノモトソウ	○				
7			ハチジョウシダ	○				
8			マツサカシダ	○				
9		ヒメシダ	ミドリヒメワラビ	○				
10			ホシダ	○	○	○	○	○
11			ミゾシダ	○	○			
12		シシガシラ	コモチシダ	○				
13		メシダ	イヌワラビ	○				
14		オシダ	リョウメンシダ	○				
15			ナガバヤブソテツ	○			○	○
16			オニヤブソテツ	○	○			
17			テリハヤブソテツ	○				
18			ヤマイタチシダ	○				
19			ベニシダ	○	○			
20			ベニオオイタチシダ	○		○		
21			キンキイタチシダ	○	○	○		
22			クマワラビ	○				
23			オクマワラビ	○				
24			アイノコクマワラビ	○				
25			アスカイノデ	○	○	○		
26	ナンヨウスギ	マキ	イヌマキ	○		○		
27	ヒノキ	ヒノキ	スギ	○				
28		イチイ	イヌガヤ	○	○	○		
29	シキミ	マツブサ	サネカズラ	○	○	○		
30	コショウ	ドクダミ	ドクダミ	○	○	○	○	○
31		コショウ	フウトウカズラ	○			○	○
32		ウマノスズクサ	オオバウマノスズクサ	○				
33	クスノキ	クスノキ	ヤブニッケイ	○				
34			ゲッケイジュ			○		
35			タブノキ	○	○	○	○	○
36			シロダモ	○	○	○		
37	オモダカ	サトイモ	ウラシマソウ	○	○	○		
38			アオウキクサ				○	○
39			コウキクサ				○	○
40	ヤマノイモ	ヤマノイモ	ヤマノイモ	○	○		○	○
41			オニドコロ	○	○	○	○	○
42	ユリ	イヌサフラン	チゴユリ	○				
43		サルトリイバラ	サルトリイバラ	○	○			○
44			シオデ	○				
45		ユリ	ヤマユリ	○				
46			シンテツポウユリ		○	○		○
47			ホトトギス	○				
48	クサスギカズラ	ラン	シラン		○	○		
49			エビネ	○				
50			シュンラン	○				
51			コクラン	○				
52			ネジバナ				○	○
53		アヤメ	ヒメヒオウギズイセン					○
54			ニワゼキショウ				○	○
55		ススキノキ	ヤブカンゾウ		○			
56		ヒガンバナ	ノビル	○	○			
57			ハナニラ					○
58			ヒガンバナ	○				
59		クサスギカズラ	ヤブラン	○	○			
60			ノシラン	○				
61			ジャノヒゲ	○				
62			ナガバジャノヒゲ	○	○	○		
63			ナルコユリ	○				
64			アマドコロ		○			
65			オモト	○				
66	ヤシ	ヤシ	マカラニ					○
67			フェニックス					○
68			シュロ	○		○	○	○

表 3.2.3 地点別の植物確認種 (2/6)

No.	目名	科名	種名	調査地点					
				保存 緑地	回復 森林	回復 緑地	親水 公園	公園	
69	ツユクサ	ツユクサ	ツユクサ (広義)	○	○	○	○	○	
70			ヤブミョウガ	○	○	○	○	○	
71			ノハカタカラクサ	○			○	○	
72	シヨウガ	シヨウガ	ミョウガ	○					
73	イネ	ガマ	ガマ				○	○	
74		イグサ	スズメノヤリ					○	
75		カヤツリグサ	メアオスゲ		○			○	
76		カサスゲ		○			○	○	
77		ケスゲ		○	○				
78		マスクサ		○					
79		ヒカゲスゲ		○					
80		ナキリスゲ		○					
81		アオスゲ		○	○			○	
82		ノグヌカスゲ		○	○				
83		アイノコシラスゲ		○	○				
84		ヤワラスゲ		○					
85		ヒメクグ					○	○	
86		メリケンガヤツリ					○	○	
87		ハマスゲ						○	
88		イネ	メリケンカルカヤ		○				
89			コブナグサ					○	○
90			ヤマカモジグサ		○				
91			コバンソウ				○		○
92			ヒメコバンソウ				○	○	○
93			イヌムギ			○			○
94			スズメノチャヒキ			○			
95			キツネガヤ		○				
96			ギョウギシバ						○
97			カモガヤ			○			○
98			メヒシバ		○	○			
99			イヌビエ			○			
100			オヒシバ						○
101			アオカモジグサ		○	○	○	○	○
102			カモジグサ		○			○	○
103	シナダレスズメガヤ				○			○	
104	コスズメガヤ							○	
105	ナルコビエ				○				
106	ドジョウツナギ			○					
107	チガヤ				○	○			
108	ササガヤ			○					
109	ネズミムギ							○	
110	オギ			○			○	○	
111	ススキ			○	○	○		○	
112	コチヂミザサ			○	○			○	
113	ケチヂミザサ			○			○	○	
114	シマスズメノヒエ							○	
115	タチスズメノヒエ						○	○	
116	ヨシ						○	○	
117	ハチク			○					
118	マダケ		○						
119	アズマネザサ		○	○	○	○	○		
120	キボウシノ			○			○		
121	メダケ		○	○		○	○		
122	ミゾイチゴツナギ			○			○		
123	ツルスズメノカタビラ						○		
124	イチゴツナギ			○					
125	オオスズメノカタビラ					○	○		
126	タマオオスズメノカタビラ						○		
127	ヒエガエリ					○	○		
128	オニウシノケグサ			○		○	○		
129	アキノエノコログサ			○					
130	エノコログサ			○			○		
131	ナギナタガヤ						○		
132	シバ			○		○	○		
133	コウライシバ						○		
134	キンボウゲ	ケシ	ムラサキケマン	○					
135			ナガミヒナグシ				○		

表 3.2.3 地点別の植物確認種 (3/6)

No.	目名	科名	種名	調査地点					
				保存 緑地	回復 森林	回復 緑地	親水 公園	公園	
136	キンボウゲ	アケビ	アケビ	○	○	○	○	○	
137			ミツバアケビ	○	○	○	○	○	
138		ツツラフジ	アオツツラフジ	○	○	○	○	○	
139		メギ	メギ	○					
140			ナンテン	○					
141		キンボウゲ	ニリンソウ	○					
142			センニンソウ	○	○	○	○	○	
143			タガラシ					○	
144			ヒメウズ	○					
145			アキカラマツ	○					
146		ユキノシタ	ユズリハ	ヒメユズリハ	○	○			○
147			ペンケイソウ	コモチマンネングサ					○
148	ブドウ	ブドウ	ノブドウ	○	○		○	○	
149			ヤブカラシ	○	○	○	○	○	
150			ツタ	○	○	○	○	○	
151			エビヅル	○	○			○	
152	マメ	マメ	ネムノキ	○	○		○	○	
153			イタチハギ		○	○			
154			ヤブマメ	○				○	○
155			アレチヌスビトハギ					○	○
156			カイコウズ						○
157			ツルマメ					○	○
158			ヤハズソウ			○		○	○
159			メドハギ			○		○	○
160			ネコハギ						○
161			セイヨウミヤコグサ					○	○
162			ミヤコグサ			○			
163			クズ	○	○			○	○
164			タンキリマメ				○		○
165			クスダマツメクサ				○		
166			コメツブツメクサ						○
167			ムラサキツメクサ			○	○	○	○
168			シロツメクサ					○	○
169			スズメノエンドウ				○		○
170			ヤハズエンドウ				○	○	○
171			カスマグサ						○
172			ナンテンハギ	○					
173		フジ	○	○	○	○	○		
174	バラ	グミ	オオバグミ	○					
175			ナワシログミ				○	○	
176			アキグミ			○			
177		ニレ	ケヤキ	○	○				
178		アサ	ムクノキ	○	○				
179			エノキ	○	○	○	○	○	
180			カナムグラ	○	○				
181		クワ	ヒメコウゾ	○	○				
182			クワクサ		○				
183			イヌビワ	○	○	○	○	○	
184			イタビカズラ	○					
185			ヤマグワ	○	○	○	○	○	
186		イラクサ	ハマヤブマオ	○				○	
187			カラムシ	○	○			○	
188			アオミズ	○	○				
189			イラクサ	○					
190		バラ	サトザクラ					○	
191			オオシマザクラ	○	○	○			
192			ソメイヨシノ					○	
193			ビワ	○		○			
194			ダイコンソウ	○					
195	コゴメウツギ		○	○					
196	ヘビイチゴ						○		
197	ヤブヘビイチゴ		○						
198	カマツカ		○						
199	シャリンバイ		○				○		
200	テリハノイバラ		○				○		
201	ノイバラ		○	○	○	○	○		
202		クサイチゴ	○			○	○		

表 3.2.3 地点別の植物確認種 (4/6)

No.	目名	科名	種名	調査地点				
				保存 緑地	回復 森林	回復 緑地	親水 公園	公園
203	バラ	バラ	モミジイチゴ	○	○			
204			ナワシロイチゴ		○			
205	ブナ	ブナ	クリ	○				
206			スダジイ	○	○			○
207			マテバシイ	○	○		○	○
208			アカガシ	○				
209			クヌギ	○	○	○	○	○
210			アラカシ	○	○			
211			シラカシ		○			
212			ウバメガシ					○
213			ユナラ	○				○
214		カバノキ	ハンノキ	○				○
215			オオバヤシャブシ	○	○			○
216	ウリ	ウリ	カラスウリ	○			○	○
217	ニシキギ	ニシキギ	ツルウメモドキ	○	○			
218			ニシキギ					○
219			マサキ	○				○
220			ツルオオバマサキ	○				
221			マユミ	○	○			
222	カタバミ	カタバミ	カタバミ	○	○		○	○
223			ムラサキカタバミ	○				
224			オッタチカタバミ		○		○	○
225			オオキバナカタバミ	○				
226	キントラノオ	トウダイグサ	エノキグサ		○			
227			コニシキソウ					○
228			アカメガシワ	○	○			○
229			ナンキンハゼ			○		
230		ヤナギ	タチヤナギ				○	○
231		スミレ	タチツボスミレ	○	○			
232	フウロソウ	フウロソウ	アメリカフウロ					○
233			ゲンノシヨウコ				○	○
234	フトモモ	ミソハギ	サルスベリ					○
235		アカバナ	メマツヨイグサ					○
236			コマツヨイグサ		○			○
237			ユウゲシヨウ				○	○
238	ミツバウツギ	ミツバウツギ	ゴンズイ	○				
239		キブシ	エノシマキブシ	○	○			
240	ムクロジ	ウルシ	ヌルデ		○			
241			ハゼノキ	○	○	○	○	○
242		ムクロジ	イロハモミジ				○	○
243		ミカン	コクサギ	○				
244			カラスザンショウ	○	○	○		
245			サンショウ	○				
246		ニガキ	ニガキ	○				
247	アブラナ	アブラナ	ナズナ					○
248			ミチタネツケバナ					○
249			タネツケバナ					○
250	ナデシコ	タデ	イタドリ					○
251			ミズヒキ	○				
252			シロバナサクラタデ				○	○
253			オオイヌタデ		○			
254			ボントクタデ				○	○
255			ママコノシリヌグイ	○				
256			ミゾソバ	○			○	○
257			スイバ			○		○
258			ヒメスイバ		○			
259			アレチギシギシ	○	○		○	○
260			ナガバギシギシ					○
261			ギシギシ	○				○
262			エゾノギシギシ					○
263		ナデシコ	オランダミミナグサ					○
264			ツメクサ					○
265			マンテマ					○
266			ウシハコベ	○			○	○
267			コハコベ	○				○
268		ヒユ	イノコヅチ				○	○
269			ヒナタイノコヅチ	○	○		○	○
270			シロザ		○			

表 3.2.3 地点別の植物確認種 (5/6)

No.	目名	科名	種名	調査地点				
				保存 緑地	回復 森林	回復 緑地	親水 公園	公園
271	ナデシコ	ヒユ	アリタソウ		○			
272		ハマミズナ	ツルナ		○			
273	ミズキ	ミズキ	ミズキ	○	○		○	○
274			クマノミズキ	○	○			
275		アジサイ	ウツギ	○				○
276			マルバウツギ	○				
277	ツツジ	サカキ	ハマヒサカキ				○	○
278			ヒサカキ	○				○
279			モッコク					○
280		カキノキ	カキノキ	○	○			
281		サクラソウ	ヤブコウジ	○				
282			コナスビ	○			○	○
283		ツバキ	ヤブツバキ	○		○		
284		エゴノキ	エゴノキ	○				○
285		ツツジ	アセビ					○
286			ヤマツツジ	○				
287	アオキ	アオキ	アオキ	○	○	○		
288	リンドウ	アカネ	ヘクソカズラ		○		○	○
289			アカネ	○	○	○		
290		キョウチクトウ	フウセントウワタ		○			
291			ガガイモ	○			○	○
292			キョウチクトウ		○			
293			テイカカズラ	○	○	○	○	○
294			ツルニチニチソウ		○			
295	ナス	ヒルガオ	ヒルガオ	○	○			
296			ノアサガオ	○				
297		ナス	クコ	○	○			
298			ヒヨドリジョウゴ	○		○		
299			アメリカイヌホオズキ	○				
300	ムラサキ	ムラサキ	ホタルカズラ	○				
301			ハナイバナ					○
302	シソ	モクセイ	ヤマトアオダモ				○	○
303			ネズミモチ	○			○	○
304			トウネズミモチ	○				○
305			オオバイボタ	○				
306			キンモクセイ			○		
307		オオバコ	マツバウンラン		○			○
308			オオバコ	○			○	○
309			ヘラオオバコ				○	○
310			タチイヌノフグリ		○			○
311			フラスパソウ	○	○			
312			オオイヌノフグリ	○			○	○
313		シソ	キランソウ	○				○
314			ムラサキシキブ	○				
315			クサギ	○				○
316			カキドオシ	○				
317			ホトケノザ					○
318			ヒメオドリコソウ		○			○
319			マルバハッカ					○
320			コバノタツナミ	○	○			
321		サギゴケ	トキワハゼ					○
322		ハエドクソウ	ナガバハエドクソウ		○			
323		クマツヅラ	アレチハナガサ		○		○	○
324	モチノキ	モチノキ	イヌツゲ				○	○
325			モチノキ	○	○			○
326			クロガネモチ		○			
327	キク	キク	オオブタクサ	○				
328			ヨモギ	○	○	○	○	○
329			シロヨメナ	○				
330			ノコンギク		○			○
331			アメリカセンダングサ		○		○	○
332			コセンダングサ	○	○		○	○
333			ベニバナボロギク		○			
334			アメリカタカサブロウ				○	○
335			ヒメジョオン		○	○	○	○
336			アレチノギク					○
337			ヒメムカシヨモギ				○	○
338			ハルジオン		○		○	○